

# 健康

## リハビリは今

〇〇 2

### 脳卒中 上肢集中訓練

## HANDS療法ベースに

経脊椎センター(同市磯子区)へ転院し、リハビリテーションを受けました。何とか歩けるようにもなり、身の回りのことはできるようになりましたが、左手は物を不自由なく持てる

とができず、しかも、持ち続けようとするといつの間にか落としてしまう状態でした。集中訓練後は不自由ながら離すことができるようになりました。当センターリハビリテー

手の動きをアシストするのがHANDS療法です。日々、課題を決めながら訓練を繰り返すことで、患者は最終的にはアシストなしで手を動かせるようになることを目指します。

訓練中は、最新の上肢訓練ロボットを使ったりもしますが、同療法も含め、装置に頼っているだけでは症状は改善しません。自分で筋肉を動かす指令を脳の表面で起こすことが必要です。それを繰り返すことで傷ついた神経回路が、新たなネットワークを形成するのを促進します。

残念ながら、現状のリハビリでは元の状態にまで治す技術はありませんし、改善への治療法を試みられる患者も限られています。

それでも、Aさんのようにリハビリの訓練によって使える上肢の範囲を広げることができれば、日常の中で使う機会が増えます。その結果さらに神経の回復が図れる可能性が広がるだろうと考えています。

(横浜市立脳卒中・神経脊椎センター副病院長・前野 豊)

第1・3月曜掲載

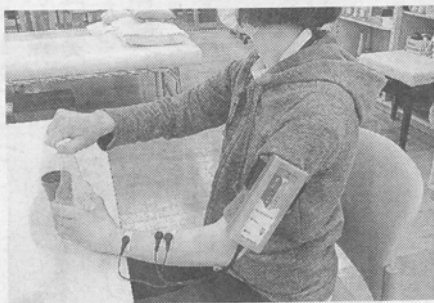
横浜市内に住む元会社員の男性Aさんは、7年前の50代のとき、技術者として北関東へ単身赴任をしました。

ある日、左手にだるいような違和感を覚えました。「疲れているのかな?」と考え、その夜は一杯飲んで就寝。翌朝になると左手足が動かなくなっていました。

状態になるまでには回復せず、退職せざるを得ませんでした。

「この手がもう少し良くならないかなあ」と思っていたAさんから相談を受けた当センターでは、左手の状態から新しい上肢訓練を試してみようと判断しました。Aさんは約3週間、入院し集中訓練プログラムをこなして退院しました。

入院当初、Aさんは左手で物を握って持つことは何とできませんでした。専用装置で電気を増幅させ、



専用装置で電気を増幅させ、手の動きをアシストするHANDS療法の実践例